

高度救命救急センター

・救急医療とは

健康状態が急変し、なにかしらの医学的介入なくしては病態の悪化を阻止できない救急患者に対して、診断・治療を行う医療のことを救急医療といいます。救急医療はその特徴上、多種多様な傷病が対象となり、大きく分けて外因性疾患と内因性疾患に分かれます。

救急患者は傷病者の重症度により一次救急（外来対応）、二次救急（入院を要する傷病）、三次救急（生死に関わる緊急性の高い傷病）に分別されています。救急医療全体の構成として一次救急が95%とその大半を占めており、二次救急は5%以下、三次救急は1%以下となります。

・当院の救命センター

日本国内には312施設（2025.4.1現在）の救命センターが設置されています。当院の救命センターは特に高度な医療を提供する高度救命救急センターに認定され、主に三次救急を対象とした医療を提供しています。救急患者の診断や治療には画像検査の担うところが非常に大きく、当院の救命センターにはそれらのニーズに対応すべく最先端のX線機器が導入されています。また、当院はドクターカーやドクターヘリの運用も行っており、近畿圏を中心とする広域な救急患者の診療や搬送にも対応しています。



高度救命救急センター外来患者搬入口



ドクターカー

- ・ 当院の救命センター内に保有する X 線機器

当院の救命センターには移動型 X 線装置、CT、血管造影装置の 3 台の X 線機器が導入されています。

◎移動型 X 線装置

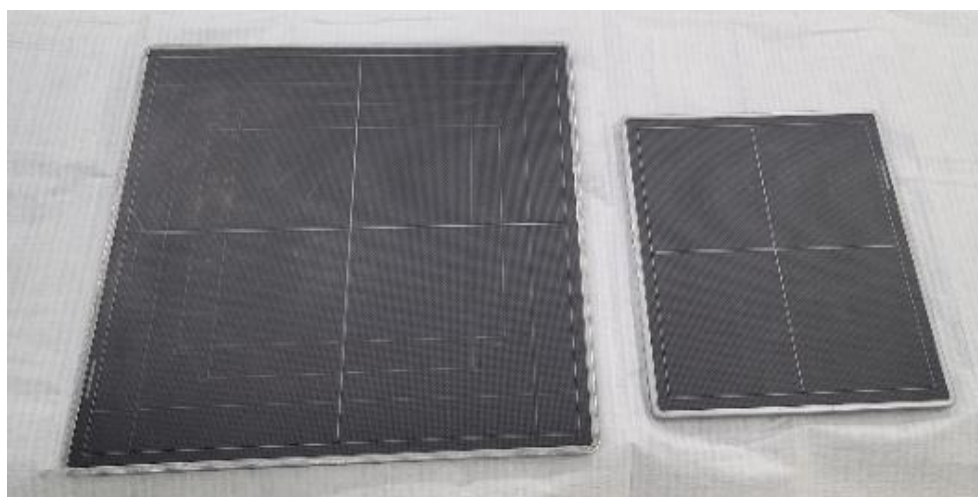
救急搬送された患者様や入院している患者様は移動型 X 線装置で一般撮影を行います。

一般撮影では患者様の経過を観察する胸部撮影をはじめ、外傷に伴う骨撮影など全身のあらゆる撮影を行うことができます。

受像器にはフラットパネルディテクタを採用することによって撮影と同時に画像が確認でき、緊急性の高い救急領域において非常に有効に活用されています。



移動型 X 線装置



フラットパネルディテクタ

◎フォトンカウンティング CT

救命センター内への設置では日本初となるフォトンカウンティング CT が導入されています。CT は人体の断面を画像化する装置になり、フォトンカウンティング CT は X 線検出器に入った X 線光子（フォトン）を直接電気信号に変換するため一般的な CT と比較して低線量で高精細な画像（最小スライス厚 0.2mm）を取得でき、組織の組成をより詳細に分析するスペクトラルイメージも可能です。

さらに当院に導入したフォトンカウンティング CT は X 線を出力する X 線管球を 2 台搭載しているため高速撮影（最大秒間 737mm/s）も可能で心大血管系疾患や息止めが出来ない患者、小児の撮影において大きなアドバンテージを有しています。



フォトンカウンティング CT

◎血管造影装置

救命センター内には、心臓カテーテル検査や血管造影検査ができる透視装置を導入しています。この検査室ではカテーテルという細い管を使用して脳梗塞や心筋梗塞で閉塞した血管を開通させたり、外傷で損傷した血管をつめて止血を行ったりします。

カテーテルを利用した治療は外科的な手術と比較して患者の負担を少なくして治療ができることが特徴であり、救急患者で全身状態が悪い患者には特に有効な治療法となります。



血管造影装置